



普及講演会 「最古の恐竜とカメ」 (実施報告)

日時：平成22年8月21日 (土) 13:30-15:30

会場：穂別町民センター

講師：平山廉 (早稲田大学 教授)

講演内容：2006年に訪れた南米アルゼンチン・イングアラストにおける最古の恐竜化石の調査①と、平山教授が専門とするカメ化石②についての講演。

①イングアラストには三畳紀 (2億年以上前) の地層が露出していて、誕生したころの恐竜の化石が多数発見されている。当時の環境は非常に乾燥した気候で食物も少なかったらしい。原始的な恐竜の特徴である二足歩行はエネルギーを節約する歩き方である。また、ヘビ・トカゲやワニなど爬虫類の多くがやわらかい殻の卵を産むのに対して、恐竜の卵は固い殻を持ち、これは乾燥に耐えるためと考えられる。こうした歩き方や卵の殻に見られる、厳しい環境に耐える体制を手に入れたことが、恐竜のその後の繁栄につながったのではないかな。

その他、二足歩行をしたワニの仲間や、哺乳類の祖先の化石が発見されている。カメが誕生したのもこの頃であるが、今回の調査ではカメ化石を発見することはできなかった。

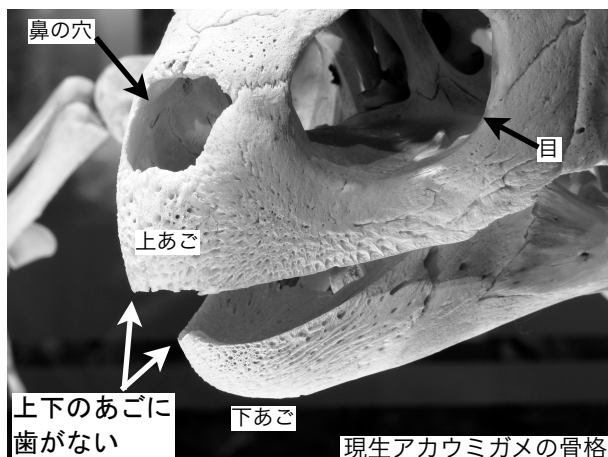
②中国で発見された2億2000万年前のオドントケリスというカメは海成層 (海でできた地層) から発見されたが、ウミガメの特徴である指の骨 (中手骨) が長くなるという傾向は見られず、主に陸上で生活していたと考えられる。また、北海道からは白亜紀のオサガメ類であるメソダーモケリスが数多く見つかっていて、その大部分は穂別地域から発見されている。

平山教授による講演



ウミガメのはなし 4

「カメは歯がない」



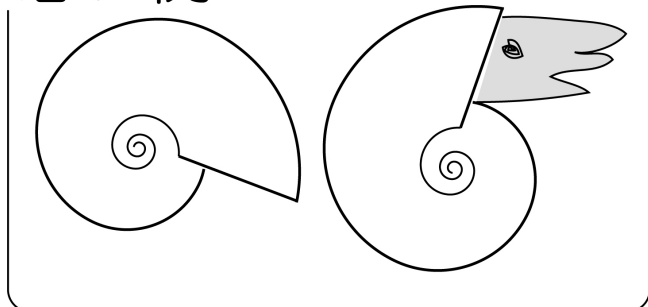
最初の頃のカメである2億2000万年前のオドントケリス *Odontochelys* には上あごに歯があり、2億1000万年前のプロガノケリス *Proganochelys* も上あごの奥に小さな歯がありました。しかしその後のカメには歯がなく、その代わりに角質 (ケラチンというタンパク質) のくちばしが口のへりをおおっています。これは鳥類のくちばしと同じようなつくりです。(学芸員 桜井)

アンモナイトの描き方2 アンモナイトの向き①

アンモナイトを描くときには決まった向きがあります。悪い例はその決まりを破っているため、カッコ悪く見えます。

アンモナイトが生きていた時は、現生のオウムガイ類と同様に、殻内部の気室内には軽い

悪い例

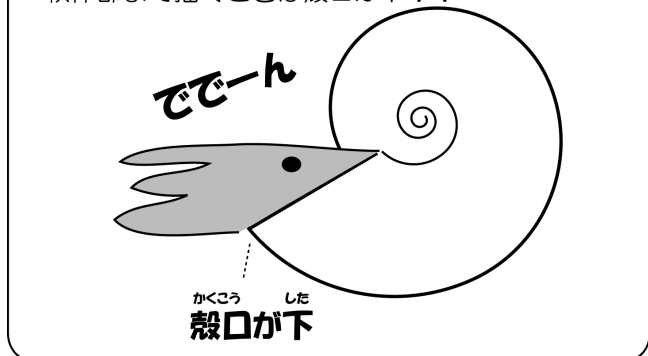


ガスが入っていて、その外側に位置する体房部には重いからだ（軟体部）が入っていたと考えられています。重い方が下になるので、図のように軟体部が下にある姿勢で生活していたと考えられています。

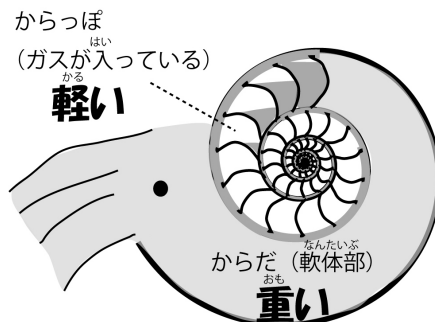
そのため、アンモナイトを描くとき、特に軟体部まで描くときには殻口を下（斜め下）にして描きます。（普及員 西村）

良い例

軟体部まで描くときは殻口が下！！



アンモナイトが生きていた時の模式図（断面）



9月の体験コーナー

10：00-15：00（当日先着受付順、最終受付14：30。アンモナイト立体図鑑づくりのみ有料。1個100円）

化石クリーニング体験 9/18（土）、9/26（日）

レプリカづくり・アンモナイト立体図鑑づくり 9/12（日）、9/19（日）

レプリカアクセサリーづくり 9/20（月・祝）

化石まつり秋 9/18（土）～9/20（月・祝）

上記の化石体験コーナーに加えて「石割り化石さがし（15：30集合）」を実施。

9/20（敬老の日）は町民無料入館日です（窓口で「むかわ町民です」とお申し出下さい）

むかわの化石や生き物く穂別の脊椎動物化石>

Elasmosauridae gen. et sp. indet.

ホベツアラキリュウ



HMG-1 ホベツアラキリュウ（左後肢）

標本番号HMG-1。博物館に全身復元骨格が展示されているクビナガリュウの化石。1975年に荒木新太郎氏（穂別在住）によって発見され、1977年に発掘された。発見・採集されたのは首の付け根から尾の付け根の胴体部分である。写真は左後肢。国内で発見されて全身を復元されたクビナガリュウとしては全国で2例目である。（学芸員 桜井）

2010年 9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

9/21、22は20の振替休館日

9/24は23の振替休館日

9/20は町民無料入館日です